

## 第8期 第7回 与謝野町産業振興会議 会議報告書

日時 令和8年4月21日(火) 午後7時00分～午後8時33分

場所 岩滝保健センター2階 会議室1・2

出席 (敬称略)

小林 厚美	寺立 浩人	糸井 宏輔	岩西 拓男
西村 彬弘	安達 幸三	谷口 祐一	太田 桂史
青木 一博	小山 大介 (zoom)	福井 義之	大槻 晃一
小田垣 凜	宮崎 真実	江種 里栄子	

欠席 (敬称略)

西原 新介	足立 克徳	山添 宏明	
-------	-------	-------	--

事務局

産業観光課 小室課長	同 田村補佐	同 井戸本補佐	同 井上課長補佐
同 妹尾係長	同 糸井主査	同 西原主査	農林環境課 糸井係長

傍聴者 6人

会議概要

1. 開会 (小林会長)

2. 議事

(1) 阿蘇ベイエリアの活性化について (グループディスカッション)

事務局より、前回までの振り返りと、現在の協議状況を説明した後、より具体的な魅力やどのような人にどのようなモノを提供すれば対価が得られるかについて、3グループでグループディスカッションを行った。

○前回までの振り返り：

- 10年前のマスタープランは「航路復活」を最重要課題としていたが、社会情勢の変化を踏まえ、今回は「航路復活を最重要課題とはしない」ことを確認。
- マスタープランを参考資料としつつ、ゼロベースで阿蘇ベイエリアの活性化策を検討している。
- 令和9年度からの「第3次与謝野町総合計画」に反映させるため、6月までに意見をまと

める予定。

- 阿蘇シーサイドパーク周辺を重点エリアとし、一字観公園などを線（サイクリングロード等）で繋いでいく。
- 広範囲に設定しすぎず優先的に取り組むエリアを明確にすることで、実効性を高める。

以下、各グループから出た意見を全体で共有した。

#### ①魅力をもっと具体的に（阿蘇ベイエリアの魅力）

- 一字観公園からの「横一文字」の天橋立、シーサイドパークから見る朝日や月、阿蘇海と空のコントラスト（景観・視点）
- 冬場の野鳥（カモ、白鳥）、防風林に囲まれた広い芝生広場、山・川・海の一体感（自然・環境）
- 男山の旧道、古い民家の街並み、八幡神社からの眺望、弓木城跡（歴史・街並み）
- サイクリングロードの拠点（広い駐車場）、宮津と伊根を繋ぐ「中継地点」としてのポテンシャル（動線・立地）

#### ②どんな人が集まる場、何を提供すれば対価が得られると思うか（将来像とターゲット・仕組みづくり）

##### 《ターゲット層》

- サイクリスト：シェアサイクルの拠点化、山・川へ足を延ばす起点とする。
- 個人観光客：レンタカー等で立ち寄る層、伊根・宮津の賑わいから離れ「静けさ」を求める層（カップル等）。
- 地域住民・ファミリー：安心して遊べる場所、朝市などの集う場所。
- 車中泊・団体客：クアハウス等と連携した滞在、トイレ休憩だけでなく購買に繋がる仕組み。

##### 《収益・活性化の仕組み（アイデア）》

- スモールスタート：巨額投資を避け、コンテナハウスやタイニーハウスでのチャレンジショップ、屋台村。
- 食・製品の提供：軽食の提供、朝市、地元農産物との出会いの場。
- 空間演出：「ラブリーな雰囲気」を高めるベンチ配置、フォトスポット。
- アクティビティ：ドッグランの設置。

## (2) その他

### ①与謝野町地域経済分析調査について

事務局並びに京都橘大学の小山教授より、令和8年度実施予定の「与謝野町地域経済循環分析調査」について説明を行った。

- 調査目的 : 令和3年度調査から5年が経過し、コロナ後の購買行動変化を可視化し、今後の施策検討の基礎資料とする。
- 調査内容 : ①地域経済分析システム (RESAS) を用いた基幹統計データ分析、②事業所 (約50社) へのヒアリング、③住民 (約100世帯) の家計・買い物調査。
- 留意点 : サンプル数に基づいた推計調査 (統計的処理) だが、精度向上に努める。
- スケジュール : 夏から秋にかけて調査を実施し、12月以降に取りまとめ、来年2～3月に報告書を作成する。

委員意見メモ : 「航路復活は、町が最重要としない方針であっても、将来的な可能性 (府・宮津市が進める府中地域の海上交通の拠点整備等)、府や宮津市との連携を視野に入れ、航路の整備を念頭に置くべき」との声があった。

### ②第8回産業振興会議

日時 : 令和8年5月22日 (金) 午後7時00分から

場所 : 岩滝保健センター2階 会議室1・2

内容 : 本日の意見集約の確認、阿蘇シーサイドパークの維持管理・災害時対応、実行段階の担い手 (プレイヤー) の確認、検討。

## 3. 閉会